

第4回幼・保・小合同研修会

と き 平成29年9月14日（木）午後3時～午後4時40分

ところ 郡山市総合福祉センター5階集会室



講演 「子どもの気持ちに寄り添う支援と幼保小連携」

講師 社会福祉法人 新生会みちのく療育園

副園長 川村 みや子 氏

川村先生は、岩手県内初の民間の重症心身障害児施設「みちのく療育園」の副園長として、また専門外来の医師として、日々、障がいのあるお子さんや特別な支援が必要なお子さんに関わっておられます。研修では、発達障がいの特性と対応、またペアレントトレーニングについてお話をしてくださいました。一部を紹介します。

今日のお話の流れ

A 発達障害がクローズアップされてきた
時代は移り変わり発達障害特性のある人が生き辛くなった
発達障害という言葉の誕生

B 発達障害特性と対応
注意欠如多動性障害 発達性協調性運動障害
学習障害 自閉症スペクトラム
自己肯定感

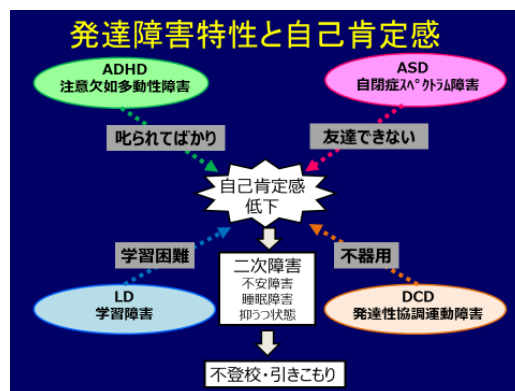
C 母親支援 地域連携
子育てが楽になる方法 パARENTトレーニング
あれんとの取り組み



講演の概要

A 発達障害がクローズアップされてきた

- ・2005年、「自閉症スペクトラム障害」「学習障害」「注意欠如多動性障害」「発達性協調運動障害」を発達障がいとして支援する「発達障害者支援法」が制定された。
- ・発達障がいは、それぞれが重複していることが多く、対応によって症状がよくなったり悪くなったりすることがある。心配なのは、特性のために自己肯定感が低下することである。二次障害を防ぐために、適切な対応で自己肯定感を下げない努力をする必要がある。



B 発達障害特性と対応

① ADHD 注意欠如多動性障害

- ・他動・衝動・不注意で叱られる。

- ・ ほめることで自信を持つようになる。
- ・ 親も難しい子育てをがんばっている。理解と励ましが必要。
- ② 発達性協調運動障害（運動や手先が不器用）
 - ・ できないことで自尊心が低下する。訓練で「やればできる」と達成感・自己肯定感を向上させる。「できた」という達成感が感じられるようにしてほしい。
- ③ 学習障害（聞く・話す・読む・書く・計算・推論する能力が 知的発達に比べて低い）
 - ・ 学習困難になり自己肯定感が下がる。いらいらしたり落ち込んだりして不登校になることもある。回りの大人が早いうちに気づいて、分かるように教えてほしい。
- ④ 自閉症スペクトラム障害（対人関係・社会性の問題）（こだわり・パターン化した行動・感覚の問題）
 - ・ アタッチメントとコミュニケーションがこころの発達に関わっている。
 - ・ アタッチメント（愛着形成）の理解、きちんと形成されているか。
 - ・ コミュニケーションに支障をきたす原因は何か。

例 知覚過敏、鈍麻

他の原因

- ・ 衝動性、不注意
- ・ 身振り手振りを読めない
- ・ 抽象的やあいまいな言葉は理解困難、言葉通りに解釈する
- ・ 耳で聞くより見たほうがわかりやすい
- ・ 白か黒かで判断する
- ・ 即座に答えることが難しい
- ・ パニック
- ・ こだわりの原因
- ・ メタ認知が悪い
- ⑤ 子育てで大切なこと
 - ・ 子どもは育つ中で自尊心（自己肯定感）を形成していく。自己肯定感が低くならないように育てることが大切。生まれつきの良い特性を伸ばし、生まれつきの困った特性を困らないようにして、自己肯定感が低くならないようにする。
 - ・ 親は、安全基地であってほしい、子どもを認める・褒める人であってほしい、善悪を毅然とした態度で教えてほしい。
 - ・ 保育士・教諭・周囲の人は、共感相手にいてほしい。子どもを認める・褒める人であってほしい。善悪を毅然とした態度で教えてほしい。

C 母親支援・地域連携

①ペアレントトレーニング

- ・ 気質は変えられないが行動は換えることができる。望ましい行動を増やし、望ましくない行動を減らすための関わり方を学ぶ。子育てが楽になる、お母さんのための「ペアレントトレーニング」である。

資料の一部

ペアトレのプログラム

国立・神経センター精神保健研究所方式

セッション1	オリエンテーション 自己紹介
セッション2	子供の行動特性と課題設定
セッション3	褒め方 肯定的注目
セッション4	好ましくない行動を減らす 無視
セッション5	子供の協力を促す方法 効果的指示
セッション6	子供の協力を促す方法 効果的指示
セッション7	子供の協力を促す方法 効果的指示
セッション8	褒め方/ペナルティ/のちえ方
セッション9	学校・園との連携
セッション10	振り返り

講義 褒め方

褒めるタイミング 行動を始めたらずに 100%できるまで待たない 25%ルール

褒める時の親の態度 近づいて 視線を合わせて にこやかに

褒める時の言い方 「行動」を褒める 歯を磨いてえらいね

褒め方バリエーション 笑顔 顔を撫でる 肩をトントン Vサイン ビースサイン ありがとう お母さん嬉しい

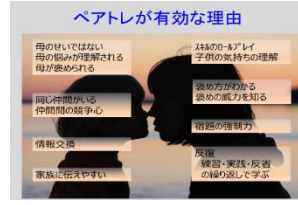
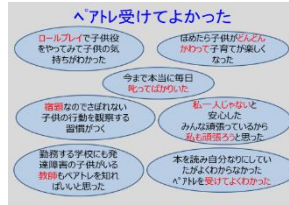
好ましい行動だけではなく 普通の行動も褒めて

昨日部活 走ってたね 肯定的注目 元気でいいなあ

君の事 好きだよ

手伝ってくれる？ 掃除をありがとう

君は褒められる対象だよ 君は感謝される対象だよ



② 紫波の子育てを支援する会「あれんと」の活動と地域連携

- ・ 発達障がい特性のある子どもの子育ての支援。
- ・ 「ペアレントトレーニング」の普及
- ・ 子どものために、医・教育・福祉の縦と横のつながりと連携が必要。

○ 最後に

- ・ 子どもにとっての幸せは、「周りの人を幸せにすること」。
- ・ 喜ぶのは、「ありがとう、おかあさんうれしい」の言葉である。子どもたちに「ありがとう」をたくさん言ってあげてほしい。

参加者のアンケートから

- ・ とても具体的に、発達障がいの方が困っていることや、それに対してどのように関わったり伝えたりする必要があるのか教えていただき本当に勉強になった。「認める」がとても大切であり、今後のその子の人生を大きく左右するのだと、改めて自分の仕事の立場を見直した。(幼)
- ・ 発達障がいは、お母さんのせいでもなく、子どもとの関わり次第でどうにか変わることがわかり勉強になりました。お母さんの気持ちも理解しながら、お母さんも疲れていかないように関わっていきたく感じました。(幼)
- ・ 発達障がい児の対応で困ることが多かった。講演を通して、子どもや保護者に対する考え方が変わり、支援をがんばろうという気持ちになれた。(保)
- ・ 発達障がいのある子には、その子に合った支援をすることで延びる部分が沢山あるので、「この子は障がい児だから」と一線を引かずに関わって行きたいと思いました。(保)
- ・ 私が教えている子にも、発達障がいではないかと思われる子どもが何人かいます。やはり、注意をしても効き目はなく同じことを繰り返して友達とトラブルになってしまいます。私も周りの子も困っていましたが、一番困っているのはその子自身なんだ、と気づかされました。つつい叱りがちでしたが、ペアレントトレーニングにあるように、認め褒めることを心がけ、その子がよりよく生活できるよう私もがんばりたいと思います。(小)